

宮城県中部地域養殖復興プロジェクト計画書
(女川町支所伊達のぎん生産者部会)

地 域 養 殖 復 興 プロジェクト名称	宮城県中部地域養殖復興プロジェクト		
地域養殖復興プロジェクト運営者	名 称	宮城県漁業協同組合	
	代表者名	代表理事理事長 阿部 力太郎	
	住 所	宮城県石巻市開成 1 番 2 7	
計 画 策 定 年 月	平成 2 4 年 3 月	計画期間	平成 2 4 年 4 月～ 平成 2 6 年 8 月

1 目的

女川町支所は、宮城県中部に位置し、カキ・ホタテ・ホヤ・ギンザケ等の養殖が盛んで、当該地域の主力産業になっている。しかしながら、東日本大震災に伴う、津波により、養殖施設及び水産物並びに陸上の養殖施設は壊滅的な被害を受けた。そのため、当該地域の主要養殖であるギンザケ業者が宮城県漁協の指導のもと、「伊達のぎん」のブランドギンザケ養殖を行っていた6経営体が共同体を組織し、共同による養殖資材の導入、同じ餌飼料の導入で、生産管理及び品質管理の徹底を図る。また給餌量の適正化等を通じて持続可能な養殖漁場を作り漁業経営の安定を目指す。

2 地域養殖復興プロジェクト参加者等名簿

○ 宮城県中部地域養殖復興協議会

	所 属	役 職	氏 名
養殖関係	宮城県漁業協同組合	理事	佐藤 徳弥
養殖関係	宮城県漁協石巻総合支所	運営委員長	丹野 一雄
養殖関係	宮城県漁協石巻総合支所	支所長	渥美 武義
地方公共団体	宮城県東部地方振興事務所 水産漁港部	部長	山岡 茂人
地方公共団体	石巻市産業部水産課	課長	勝亦 睦男
地方公共団体	女川町水産農林課	課長	武山 欣一郎

○ 宮城県漁協女川町支所伊達のぎん生産者部会

	所 属	役 職	氏 名
養殖関係	宮城県漁協女川町支所	運営委員長	阿部 彰喜
養殖関係	宮城県漁協女川町支所伊達のぎん生産者部会	部会長	鈴木 文明
養殖関係	宮城県漁協女川町支所伊達のぎん生産者部会	副部会長	阿部 敏雄
地方公共団体	宮城県東部地方振興事務所 水産漁港部	水産振興班 技術主査	阿部 丈晴
地方公共団体	女川町水産農林課	参事	和田 篤朗

3 震災前の養殖業の概要

女川町支所は、宮城県中部に位置し、金華山沖の豊富な漁場が目の前にあり、漁業の町である。養殖業も盛んで、ホタテ・ギンザケの水揚げは県内一を誇り、カキ・ホヤ等の養殖が盛んな地域である。22年度のホタテ養殖は1,039百万円の水揚げがあり、カキ養殖は476百万円と県内屈指の養殖場となっている。その中において、特にギンザケ養殖は県下で50経営体が従事し、4,475トン、1,850百万円と当支所の主力養殖業である。

・震災前の施設等の状況

施設名	所有者（個人・共同利用の別）	規格	施設数
養殖施設	個人所有	生簀式 （7.5m×8角形） （6.5m×8角形） （6.5m×8角形）	21台 （4台／人×1人） （4台／人×2人） （3台／人×3人）
陸上施設	無		
作業船	個人所有 個人所有 個人所有	10トン未満船漁船 10トン以上船漁船 船外機船	5隻 1隻 6隻

4 被災状況

	規格及び数量	金 額	被災内容
養殖施設 (21台)	・生簀 7. 5m×8角形(65A)×4台 6. 5m×8角形(65A)×17台	4,032千円 (100,8万×4台) 14,450千円 (85万×17台)	流失
	・出荷用小杵 7m×7m(65A)×5台 5m×13m(65A)×1台	2,250千円 (45万×5台) 480千円 (48万×1台)	流失
	・生簀網 7. 5m×8角×10m (10節) ×4 7. 5m×8角×10m (8節) ×4 7. 5m×8角×10m (7節) ×4 6. 5m×8角×10m (10節) ×5 6. 5m×8角×10m (8節) ×5 6. 5m×8角×10m (7節) ×4	2,972千円 (743千円×4張) 3,024千円 (756千円×4張) 2,612千円 (653千円×4張) 3,720千円 (744千円×5張) 3,295千円 (659千円×5張) 2,548千円 (637千円×4張)	流失
	・生簀網 (小杵) 7m×7m×10m (8節) ×5 5m×13m×7m (8節) ×1	1,655千円 (331千円×5張) 310千円 (310千円×1張)	流失
	・発砲フロート (1,050×600) 生簀 32個×21台 出荷用小杵 12個×5台 14個×1台 計746個 8,500円/個	6,341千円 (8,500円×746個)	流失
	・方塊 3トン方塊×50個 2トン方塊×40個 2トン方塊×32個	1,662千円 (33千円×50個) 800千円 (20千円×40個) 672千円 (21千円×32個)	流失
	・ロープ マリンA26m/m (200m) ×39丸 PPロープ24m/m (200m) ×8丸 NPロープ24m/m (200m) ×12丸	2,106千円 (54千円×39丸) 368千円 (46千円×8丸) 552千円 (46千円×12丸)	流失
	他資材	34,097千円	流失
	合 計	87,946千円	

	規格及び数量	金 額	被災 内容
陸 上 施 設	なし		
作 業 船	10トン未満船漁船 1隻 船外機船 4隻	9,900千円 3,040千円	流失
養殖水産物	ギンザケ 750トン	375,000千円 (75万尾平均1kg/@500)	流失

5 計画の内容

(1) 共同化の取組

以下の取り組みを参画する養殖業者共通の取り組みとする。

① 品質管理の徹底

鮮度保持や処理方法の改善に取り組みながら、ギンザケ養殖魚の品質を高めることで消費者に安全・安心な生産物の供給を構築したい。

又、宮城県公衆衛生協会および、女川町役場の管理施設内にある測定機を活用しながら、放射能濃度検査を取り入れるものである。

具体的には、伊達のぎん生産者部会として放射能濃度検査を水揚出荷前は月1回、水揚期間中は週1回の検査を実施する。

② 飼育密度・給餌方法の適正化

これまでの過密養殖を避け、適正な飼育密度を保つことで魚の成長を高め、もっと成長が良くなるよう取り組んで参りたい。

適正な時期に隔日給餌を実施しながら餌料費の軽減に努め、コストダウンを図っていくものである。

具体的には、被災前の養殖イセス1台当りの投入稚魚数7.2トンを1台当り計画5.7トンにおさえて、投入密度を薄くしてイセス内を拡大する。

その結果、養殖魚のストレスが減ることによってムダなエサが少なくなり、最終的な飼料投入が軽減されることを目指すものである。

③ 飼料保管の共同化

宮城県養殖用資機材等緊急整備事業(県単)を活用して、ギンザケ養殖に必要な飼料を浜に設置したコンテナで保管を実施する。

(2) がんばる養殖復興支援事業の活用

- ・事業実施者：宮城県漁業協同組合
- ・生産契約先又は契約養殖業者名：別紙の通り
- ・実施年度：平成24年度～26年度
- ・取組みスケジュール

	期 間	23年度	24年度	25年度	26年度
検討期間	23年10月～24年3月				
事業期間1	24年4月～24年8月				
事業期間2	24年9月～25年8月				
事業期間3	25年9月～26年8月				

(3) 施設復興計画

施設名	所有者（個人・共同の別）	規格	震災前	復興1年目	2年目	3年目	活用する事業名
養殖施設	個人所有	生簀式 7.5m×8角形) 6.5m×8角形)	施設台数21(台)	13台	24台	24台	宮城県養殖施設災害復旧事業
陸上施設	共同利用 (宮城県漁業協同組合)	ローラーコンベア コンテナ倉庫 (12m×2.3×2.6m)5棟 (6m×2.3×2.6m)1棟 リフト 3台	— —	22台 6棟 3台	22台 6棟 3台	22台 6棟 3台	宮城県養殖用資機材等緊急整備事業(県単)
作業船	個人(共同)	10トン未満漁船	4隻 1隻	5隻 —	5隻 —	5隻 —	共同利用漁船等復旧支援対策事業
	個人	10トン以上漁船	1隻	1隻	1隻	1隻	女川町共同利用漁船等復旧支援事業
	個人(共同)	船外機船	3隻 3隻	6隻 —	6隻 —	6隻 —	

(4) 生産量及び経営体数

項目	震災前	復興1年目	2年目	3年目
生産量 (トン)	1, 3 7 8	8 9 3	1, 3 9 0	1, 3 9 0
生産金額 (千円)	@ 4 4 0 6 0 6, 3 2 0	@ 4 5 5 4 0 6, 2 7 1	@ 4 5 5 6 3 2, 5 4 1	@ 4 5 5 6 3 2, 5 4 1
経営体	6 経営体	6 経営体	6 経営体	6 経営体

(5) 復興に必要な経費

(単位：生産量はkg、その他は千円)

	震災前の 状況	復興 1 年目	2 年目	3 年目
収 入	606,320	406,271	632,541	632,541
生産量 (kg)	1,378	893	1,390	1,390
生産額 (千円)	606,320	406,271	632,541	632,541
経 費				
人件費	57,134	32,670	42,200	42,200
水道光熱代	3,828	2,571	4,326	4,326
種苗代	115,199	67,452	105,336	105,336
餌 代	382,882	264,371	411,342	411,342
養殖用資材代	6,600	4,255	6,319	5,219
魚箱・氷代	2,400	1,300	2,450	2,450
販売費		15,236	23,720	23,720
損害保険料	3,874	2,534	4,494	4,494
修繕費	3,451	2,443	4,271	4,244
公租公課	3,578	2,893	4,356	4,356
その他経費	29,271	7,766	11,755	11,672
減価償却費	13,090	6,032	4,690	4,107
施設利用料		10,047	5,024	2,512
経費計	621,307	419,570	630,283	625,978
収 支	△14,987	△13,299	△2,258	6,563
償却前利益	△1,897	2,780	11,972	13,182

<養殖の生産方法>

ギンザケ養殖の生産期間は、11月から8月まで。11月に種苗を導入し海面の生簀で、給餌作業を行い翌年4月中旬から選別出荷を開始し、8月までに出荷作業を完了する。

残りの2ヶ月間は養殖の準備期間に該当し、生簀の整備及び網の手入れ等を行い周年操業が生じる。

注) 経費等の考え方

1. エサ代に係る経費計画

(1) 直近5ヶ年の実績をもとに引続き朝夕2回飼料投入を実施することで、水揚生産量に係る成長倍率を1.2倍に見込んでいる

(2) 尚、水揚単価455円を計画している(直近5ヶ年平均453.3円)

2. 種苗代に係る経費計画

(1) 増肉係数を被災前1.56倍から1.46倍に改善することで飼料金額の圧縮を目指すものである

(2) 飼料単価を平均221円で算出した(被災前195円)

(3) 今回、稚魚単価を被災前977円を価格交渉を行い924円に軽減した。これにより利益率の向上を見込んでいる

3. 人件費・・・復興1年目は、養殖台数13基(被災前21基)の為、水揚収入に占める専従者等の給与総額を算出した。

4. 水道光熱費・養殖用資材代・魚箱氷代

(1) 水道代及び氷代は、目先がないことを考慮し費用増が試算される

(2) 養殖用資材代は、被災全損により新品入替で軽減されるも2年目以降は、通常経費を見積った

5. 販売費・・・収入生産額の水揚手数料3.75%で算出した

6. 損害保険料・・・漁船保険の掛金を算出した

7. その他経費・・・(内訳)

・通信費・・・1年目777千円・2と3年目1,404千円

・漁業権行使料・・・1年目780千円・2と3年目1,140千円(1台6万円)

・その他・・・車輦費・諸会費・雑費を

1年目2,060千円・2年目4,104千円・3年目4,068千円

8. 減価償却費・・・被災前の未償却残高に每期3年分のみの償却費を算出した
又、激甚補助後の償却残高に每期3年分のみの償却費を算出し、それぞれを合算した数値を計画した

(積算内訳)

・償却資産 7,560千円×0.2 = 1,512千円

・リフト 1,900千円×0.2 = 375千円(4台分)

・エンジン 29,000千円×0.143 = 4,147千円

計 6,032千円

9. 施設利用料・・・ 共同利用補助事業で購入した資産に係る自己負担割合を算出し
中部地区施設組合へ支払う分を算出した

(積算内訳)

・リフト	3台	×	11,660千円	×	0.2	=	2,322千円
・船外機	3隻	×	9,603千円	×	0.2	=	1,920千円
・動力船	1隻	×	17,460千円	×	0.143	=	2,497千円
・ローラーコンベア	22台	×	1,090千円	×	0.2	=	218千円
・コンテナ	5棟 (12m×2.3×2.6m)	×	530千円			=	2,650千円
	1棟 (6m×2.3×2.6m)	×	440千円			=	440千円
							計 10,047千円

6 復興後の目標

(1) 生産目標

	震災前		10年後
養殖施設数	21台	⇒	24台
陸上施設数	なし		なし
養殖業者数	6経営体		6経営体
常時養殖従事者数	22人(経営者含む)		22人(経営者含む)
臨時雇用者数	23人		23人
生産量	1,378トン		1,390トン
生産金額	606,320千円		632,541千円

(2) 生産体制

ギンザケ養殖に係る養殖施設は、宮城県養殖施設災害復旧事業補助を受け復旧整備した。又、給餌量の適正化を図り、飼料効率を改善することにより、飼料費にかかる費用の削減に努める。種苗、餌をぎん太郎に統一する事によりぎん太郎に含まれているクマザサのポリフェノール効果により魚肉臭の軽減、飼料効率改善、免疫賦活効果が作用することが実証済みで、その効果により安定した品質の魚を生産し、計画的に出荷することにより、集中水揚げを回避することで魚価の暴落を防ぎ収益の維持安定を図る。

7 復興計画の作成に係る地域養殖復興プロジェクト活動状況

実施時期	協議会・部会	活動内容・成果	備考
平成24年 3月21日	第1回中部地域 養殖復興協議会	・会長の選任 ・運営事業実施計画について	
平成24年 3月21日	第1回女川町支所 伊達のぎん生産者 部会	・部会長の選任 ・養殖復興計画の検討、承認について	
平成24年 3月21日	第2回中部地域 養殖復興協議会	・養殖復興計画の検討、承認について	